ひとはく通信

# ハーモニー

130 Sep. 2025

## 博物館資料が支える最先端研究

>Mp048←

### > Mp049↔

### >Mp050←



形のない自然現象や収蔵できない巨大なものを後世に伝えるには、それらを観察し、文字やスケッチ、 写真、音声、動画などの形態で記録して残す必要があります。森林や草原などの植生(土地をおおう植物 のまとまり)も記録でしか残せないものの1つです。植生を構成する植物種の組み合わせ(種組成とい います)やその量、立体構造などについて植物社会学的方法により記録したものが植生調査資料です。 日本では戦後から現在にかけてこの調査が盛んに行われてきました。ひとはくでは館独自の調査で得 たものに加え研究者から寄贈されたものを収蔵し、公開型データベース(以下DB)を構築しています。

ひとはくのDBには現在、約15,000点の資料が登録され、その多くは兵庫県内の植生に関するものです。 このようなDBを構築している研究機関は国内でもわずかであり、WEB無料公開されダウンロードでき る(ただし希少種情報は除く)のは当館だけです(https://www.hitohaku.jp/musepub col/VegetationTop.aspx)。 このDBを使って、ぜひ、ひょうごの森や草原のむかしの姿をご覧になってください。

橋本 佳延(生物資源研究グループ)

7h 12				1.70	
(No. 3 - 3 )		植生調	査票 ③	(金) 橋	本
*************************************	東灘	区東お外	25.L V	7.浪	13 保
(地質)	(風音)		(日当) 展		(海拔) メ35 п
(地形)	(土湿)	乾 · 適 · 湿	<ul> <li>過程・提用</li> </ul>	1. 池 - 川	(518) N 70W
(土性) 岩・珠・砂・シルト・粒	(線度)		(経度)		(傾斜) 5
群落名 地	較	ススキ ネザサ マェバハキ	1.35m		(画稿) ユ x 2,5 m 20 之少年 9 月25日
T <sub>1</sub> m % T <sub>2</sub> m 9	6 S <sub>1</sub>	m % S <sub>2</sub>	m	% H/.3	m /00% M
				95	オサ"サ
				75	ススキ
	_			14	マルバハキ
	-			0.56	ニオイタチッポスミ
	-	+		2,35	オカトラノオ
				0.1	#n ku ku'a
				0.99	トメチェナフケ
				0.21	>MZEV
				4.71	ヒカゲスケ"
				0.14	/アサ"ミ
	_			0.02	ニャナ
	-			0.2	シラヤマギケ
	-			0.04	ヤマノイモ
	-			0.01	アカマツ

写真に収められたススキ草原の地点(左)で調査した植生調査資料(右)には、映像では読み取れない詳細な種 組成情報が記録されている。

#### 博物館資料をどう活用するか「種子果実標本」 トピックス

種子と果実は形態学的に明確に定義されていますが、実際の 標本は多様で簡単に果実と種子を見分けることが困難なことが よくあります。ここでは種子、果実およびその付属体を合わせて、 「種子散布体」と呼ぶことにします。博物館に収蔵されている 種子散布体の標本は、種子果実に関する形態学、組織学、発生学、 分類学、生態学など、様々な分野での研究や、種子散布に関す る研究資料として利用されています。また動物の消化管内容物



写真2 種子・果実標本はサンプル瓶に入れて 収蔵される。ガガイモ科の種子標本。

や、糞分析、土壌中

写真1 マメ科標本の収蔵されている棚 (学名のABC順に収蔵)

体の同定用参照標本としての利用もされています。博物館 では兵庫県産の絶滅危惧植物の系統保存にも取り組んでお り、種子保存の証拠標本としての機能も果たしています。 現在2000種、7000点の種子果実標本が収蔵されています。

藤井 俊夫(生物資源研究グループ)



の埋土種子や植物遺